

Oct 24, 41
Meiji

□本號口繪は小判ワットマン四つ切のスケツチにして臺灣の風景に御座候

□次號の口繪は『紅葉』の風景畫を掲出致すべく、猶、その頃開會中なるべき、文部省美術展覽會及び、白馬會の水彩畫に對する慎重なる批評を登載可致候

□前號に挿入すべき筈なりし奈良講習會々員の寫眞は、製本の際誤て取落し候に付本號に綴込置候

□諸君より屢々御催促ある『靜物寫生の話』の續稿は、次號若くは其次の號より必ず出すべく候

□十一月中旬を期して本誌臨時増刊を出すべき計畫に候、内容は、畫家未到の靈地尾瀨沼及尾瀨ヶ原の紀行を重なるものとし、同地に關する風景寫生畫の多數を挿入すべき筈に御座候

□『みづゑ』の發行日は毎月三日なれど、編輯の都合により、前月二十五日頃印刷出來上り、納本の上は前月中に發送すること往々有之候、されば直接讀者諸君のうち、宿

所等の變りし場合には、遅くも二十五日頃迄に本會へ御通知ありたし。次に質問等も次の號にて答を得たい方は十日頃迄に原稿の着するやうに御願申上候

問に答ふ

■『みづゑ』二十九の『社頭』二十八の『遼河の岸』、三十六の『小笠原清瀨村』、四十の『富士山の朝』等の三色版は摸寫しても差支なきや、また『社頭』に用ひられし彩料は如何なるものにか(三田尻愛讀者)◎何れも摸寫して差支なからん、次に『社頭』の色彩は原畫とは多少の相違ある故こゝに示しがたし

■音楽界、音楽新報、音楽、美術新報の發行所及定價を知りたし(花輪ハーバード生)◎美術新報は東京本郷湯島切通坂町畫報社發行毎月二回一冊五錢、音楽雜誌は合併してたゞ音楽界一つあるのみ發行所其他未詳

■繪具箱の横にある筒は何なりや、郊外寫生の時にのみワットマンを水貼するものにか(大橋正治)◎筒とはチユーブといふてや

はり繪具なりネヅリて口をとり尻の方からパレットの上へ押出して用ふ、又水貼は必ずしも郊外寫生に限らず何時でも水貼して用ふべきもの、次にサバキ筆とは何のことか不明■美術時報及美術評論は廢刊せしにや(佐藤周子)◎前者も後者も寄送し來らぬ故不明なれども多分後者は神田連雀町十八番地美術評論社にて發行を續け居るべし、定價未詳

讀者の領分

■小笠原紀行はドシ／＼出して下さい、それから十月文部省の展覽會の時は、みづゑの批評が展覽會中に見られるやうに御盡力を願ひます(本郷一紅生)■自筆水彩畫葉書の御交換を願ひます(秋田市梅の町河村綠葉生)■僕は學業多忙のためこの頃スケツチに出掛られぬ、せめて諸君の御筆跡に接したい、ワットマン十六切位ひのを二枚お恵み下さい御禮には『みづゑ』一冊を必ずさし上ます(日本橋區伊勢町十八、平澤光)■スケツチ箱不用譲りたし(小石川區雜司ヶ谷顯本大學内安藤滋)